



県下一周駅伝、 沿道応援が力に

2月17日(土)から21日(水)にかけて「第71回 鹿児島県下一周市郡対抗駅伝競走大会」が開催され、県内12地区の代表選手が53区間の583.3kmを駆け抜けました。

本町からは、中脇健太選手(中沖小学校教諭)、児玉貴洋選手(自営業)、米永夏輝選手(大崎町役場)、久徳直弘選手(本町出身、京セラ鹿児島国分工場)が出走しました。

また、郷土入りとなった20日、中脇選手が志布志市から大崎町の区間を走り、同校全児童が応援に駆け付けました。児童は、手づくりのうちわやメッセージを書いた横断幕を持ち、中脇選手の背中が見えなくなるまで大きな声でエールを送りました。中脇選手は「子どもたちの応援が力になりました」と笑顔で話されました。

大会の総合順位は、鹿児島チームが1位に輝き、曾於チームは9位(Cクラス優勝)という結果でした。



色鮮やかな雛飾りにうっとり

龍相いさ子さん(横瀬)の自宅ギャラリー「夢工房 龍宮」において、つるし雛や段飾り、自作の陶芸品が展示され、3月1日(金)から5日(火)の間、開放されました。1つ1つ心を込めて作られたウサギやナス、這い子人形、巾着など色鮮やかな約100点のつるし雛に、来場者は見入っていました。会場では手づくりのこんにゃくや苺かるかんなどの販売をおこない、収益は「子ども食堂いちごちゃん」の運営費に充てられるとのことでした。

町外からも多くの方が訪れ、龍相さんは「大崎町を盛り上げたい」と笑顔で話されました。期間外も見学できるそうです(要予約)。



地域を活性化したい！ 熱い思いが再建へ

2月28日(水)、横瀬の南方神社において竣工式・祝賀会がおこなわれ、参加者が完成を祝いました。神社は江戸時代に建設され、長年参拝されてきましたが、老朽化が進み倒壊の危険性があることから、住民有志による同神社建設実行委員会を令和4年に発足し、社殿を再建しました。再建には寄付を募り、役員や地域の皆さんの「地域を活性化したい」という熱い思いが町内外、遠くは国外の方に届き、目標の500万円を大きく上回る約700万円が集まりました。実行委員長の諸木逸郎さんは「皆さんが知恵を出し合い、多くの方にご協力いただき、再建できました。これからの未来のために、新しい時代に対応した地域づくりをみんなで考えて、南方神社を中心に地域活性化をしていきたいです」と話されました。